

きつちよむ はなし
吉四六さんの話

ふね かね
～舟のお金～



よ まえ
★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



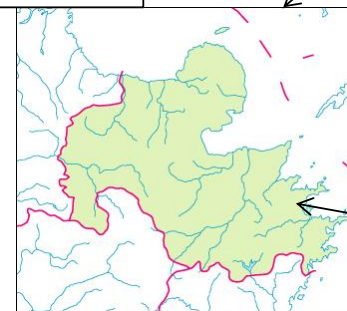
《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



おおいたけん
大分県



のつまち
野津町

むかし おおいたけん の つまち いま おおいたけんうすき し
昔、大分県の野津町（今の大分県臼杵市
の つまち きつちよむ おとこ
野津町）に、吉四六さんという男がいまし
た。

きつちよむ あたま
吉四六さんは、頭がよくて、いつもおも
しろい話をしていました。その話にみんな
が笑いました。みんなはたの
吉四六さんが大好きでした。



ある日、吉四六さんが舟のそばで客を待つ
ていると、旅をしている侍がやってきて、
聞きました。

「川の向こうまでいくらだ？」



「片道、8文です」

*「文」は昔のお金です。1文は25円ぐらいです。

「8文は高い。6文にしろ。」



さむらい かたな も
侍 は 刀 を 持 っ て
い て、つよ ひと
強 そう な 人
で した。

きつちよむ すこ かんが さむらい
吉 四 六 さ ん は、少 し 考 え ま し た。そ し て 侍
か ら 6 文 も ら っ て、しゅっぱつ
出 発 し ま し た。

さむらい こわ かお いそ い
侍 は 怖 い 顔 で 「急 げ」と 言 い ま し た。



もう すぐ 着 き ま す。そ の と き、きつちよむ
吉 四 六 さ ん
は、ふね と 止 め て 言 い ま し た。

「こ こ ま で が 6 文 で す。」

「？」

「こ こ か ら 向 こ う ま で 行 く の に、あ と 2 文
た 足 り ま せ ん。」

「向こうまで行けないなら、元の場所に戻

れ。」

「はい、わかりました。」



吉四六さんは、元の場所に戻りました。

「ここまで戻ってきたのですから、帰りの

片道6文をお願いします。」



ちよしや すみだ たまき
著者 住田 環

おおいたはつ よ かい かいじん
(大分発わくわく読みものをつくる会 会員)

きょうりよく たげんごたどく
協力 NPO多言語多読 (<https://tadoku.org>)

イラスト かとう もりひろ
加藤 守弘

さんこうしりょう
参考資料

こぐれまさお
木暮正夫 (1989) 「ふねのわたしちん」, 『これはナルホド

ぼなし にほん ぼなし ぼなし
きつちよむ話』(日本のおばけ話・わらい話 9), pp.9-13,

いわさきしょてん
岩崎書店

ほん なか にじしろう きん
この本の中のイラストの二次使用を禁じます。



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>